



友



愛

〒733-0032 広島市西区東観音町 8-10

NPO ワールド・フレンドシップ・センター

理事長：山根美智子 館長：Richard&Xinia Tobias

TEL (082) 503-3191 FAX (082) 503-3179

E-Mail: wfchiroshima@nifty.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>

WFC blog: <http://www.wfcpeace.blogspot.jp/>

2015年3月発行



W F C 5 0 周年に  
寄せられたメッセージ

W F C の歴史  
2005年～2015年

# 目次

## WFC50 周年記念へのメッセージ

山根美智子 .....	1
立花志瑞雄 .....	1
ドン&ポーリーン・ヘス .....	2
ケント&サラ・スワイツアー .....	3
ロン&バーブ・サイニー .....	5
ジョアン&ラリー・シムズ .....	6
リチャード&シーニア・トバイアス .....	7
ジェシカ・レンショー .....	9
高原弘子 .....	11
デイビッド&エビー・バーチェ .....	12
アリス&ロバート・ラムザイヤー .....	13
スティーブ・リーパー .....	14

## NPO ワールドフレンドシップセンターの歴史

2005年-2007年 (ドン&ポーリーン・ヘス) .....	16
2007年-2009年 (ケント&サラ・スワイツアー) .....	17
2009年-2011年 (ロン&バーブ・サイニー) .....	18
2011年-2013年 (ジョアン&ラリー・シムズ) .....	19
2013年-2015年 (リチャード&シーニア・トバイアス) .....	22

## 記念誌 2005 年～2015 年の歩みに寄せて

理事長 山根美智子



WFC に関わって 30 年以上経ちました。30 代前半から子育てをしながら WFC に通い続け、自分自身もその間大きく成長したと感じられる人生でした。被爆証言の通訳や、平和公園の碑めぐり等のボランティア活動を通じて、海外からの素晴らしい人々に出会い、世界に視野を広げることができました。創立以来、約 40 組の館長達がアメリカから派遣されました。その内、私が出会った館長は 25 組に及びます。どの館長も、それぞれ性格・特技は様々ですが、皆さん平和主義者で、強い奉仕の心を持ち、その働きぶりにはただ感嘆するばかりでした。

2012 年 5 月から、私が 3 代目の理事長に任命されました。あまりの重責に押しつぶされそうな時もありましたが、その度に館長達の優しい励ましの言葉や、仲間の応援のお陰で、何とか 3 年近く続けることができました。この間、日常の活動以外に、One World Peace Concert 開催、シュモアハウスの開館、BTS( Breaking the Silence)上演 などの大きな行事もありました。そしてこの度は、WFC 創立 50 周年記念行事というとても重大な節目を迎えることになりました。皆様の協力のお陰で、この年をご一緒に祝えることを心から感謝したいと思います。



### みなさんの平和の働きに感謝をこめて

WFC50 周年記念事業委員会委員長  
立花志瑞雄

設立から半世紀。今年 8 月 7 日、ワールドフレンドシップセンター (WFC) は、設立 50 周年をむかえます。バーバラ・レイノルズさんの WFC へこめた思いに目を向け、これまで共に歩んでくださった方々に感謝し、新たな 50 年に向って歩むべく、4 月に WFC50 周年記念事業を行うことになりました。この記念誌の発刊もその一つです。

50 年は長い時間です。私が子どもの頃にはすでに WFC は存在していました。バーバラ・レイノルズさんの「私もまた被爆者です」という思いを大切に、平和のために働き続けられた多くの方々がおられたことを 50 周年記念事業の準備をするなかで知りました。そのような方々にお会いできることをとても楽しみにしています。

今も WFC の活動は続いています。そして、WFC の 50 周年を機に、平和のために働いてくださる方々との新たな出会いが生まれることを願っています。共に平和の道を歩んで行きましょう。バーバラさんが願ったようにその道が「平和の神」の道であることを信じて。

## ドン&ポーリーン・ヘス (WFC 元館長 2005 年-2007 年)

### 時は何処に

私達が 2005 年に初めて広島に着いてからもう 9 年も経ったとは思えません。丁度ワールドフレンドシップセンター創立 40 周年記念の年でした。知らない場所で、日本語もわからず、何が待っているのかわかりませんでした。そしてジョエルとベブ・アイカンベリーの後任として大きな期待に応



(木曜日クラスのメンバーと)

えられるか自信がありませんでした。わからないことばかりでしたが、ブレザレン・ボランティア・サービスからのお墨付きがあったので前向きな気持ちになりました。私達二人ともブレザレン・ボランティア・サービスにかかわっていて、ドンは洪水や自然災害の被災地で住居の修復、ポーリーンは別の場所でしたが被災地で子供の世話をしたことがありました。私達は英語を教えたり、ゲストの世話をしたりした経験がないにもかかわらず前向きな態度で広島に来ました。

最初から、センターは神様が人生の中のその時期に私たちにいることを望まれた所だとわかりました。いろいろなレベルの熱心な生徒たちに英語を教えることは喜びでした。その上、私達はアメリカと日本の文化の違いについて話し合いました。

私達が予期していなかったことは、英語クラス以外の多くの文化活動に参加できたことでした。コンサート、花火大会、演劇そしてダンスに招待され、また理事や生徒達の家で昼食や夕食を楽しみました。その時、家の中にあった独特な飾りつけと絵画は、買ってきたものでなく家族の作品で、その豊かな才能に驚きました。

ポーリーンはスクエアダンスの経験者だったので、英語で指示を出すジャパニーズ・ラウンドダンシングクラブに参加出来るととても喜んでいました。彼女はグループの人から英語の発音を直してほしいと頼まれました。そこで楽しい時間を過ごし日本人の新しい友達ことができました。

通ってくる生徒さんに英語を教えるだけでなく毎月 100 人あまりの世界中からのゲストをもてなしました。多くの生徒はゲストに平和公園ツアーガイドをしました。朝食の時には会話を通してゲストのことを知ろうとしました。そして夕方にはゲストとコーヒーかお茶を飲みながらつろぎ、その日の観光についての話を聞くことが楽しみでした。いつも決まって、私達の話は原爆投下をどう思うかということになりました。それは教育そのものでした。

時は何処に行くのでしょうか。時は常に前に進んでいます。私達の前に多くのボランティア館長たちがいて、私達の後にも続いています。ワールドフレンドシップセンターで過ごした素晴らしい思い出を振り返りながら、私達は現在の館長たちとアメリカ委員会から送られてくる報告を楽しみにしています。現在のワールドフレンドシップセンターが直面している問題と私達が 2005 年から 2007 年に直面した問題が違っていると痛感せずにはられません。組織が 50 年間存続していくためには、変更を余儀なくさせられる時もあります。バーバラの願いを継続するために、難しい決断を迫られている現在のリーダー達のためにお祈りしています。50 周年おめでとうございます。



(英会話クラスのメンバー達と楽しいひと時)

### ケント&サラ・スワイツァー (WFC 元館長 2007 年-2009 年)

2007 年 5 月から 2009 年 5 月まで「館長達」として勤めました。この間、WFC は世界中から広島に来られる大勢の方々に滞在の場を提供しました。生徒さんやボランティアの方々の助けを借り、WFC の台所を始めとして施設の大きな改装を一緒にしました。またセンターの隣のピース・ガーデン・ビラに客室と教室も増設しました。そして、ワールドフレンドシップセンターは NPO 法人になりました。



次の世代へ「バトンを渡す」という取り組みとして、まず修道大学のインターンシップが始まり、続いて広島で学ぶために、ウィルミントン大学

からインターン生が来ました。また WFC は中国、韓国、日本の子供達が参加する最初のピースキャンプを行うために募金を集めました。アメリカ、韓国から PAX メンバーを受け入れ、WFC からは韓国へ派遣しました。

英語クラスの生徒達、理事達、友人達から、教室で、理事会、また伺ったお宅、旅行先、お祭りで、多くのことを学ぶ機会に恵まれました。自分たちの経験を語りながら、より平和で思いやりのある世界の実現のためにたゆみなく尽くされる被爆者と通訳の方々



私たちは、英語を教えたり、日本の文化、習慣それから食べ物について学ぶ機会が持てたことに感謝しています。また数々の思い出や、さまざまな行事を写真に撮って心に残すことが出来ました。日本にいる間、私たちをあたたかく歓迎いただき、多くの方々とお会いすることができ、数々の励ましのお言葉をかけていただいております。

(ミャンマーへの募金、平和文化センターにて)



(2009年広島ユネスコ活動奨励賞受賞)



(ペアセロベ)

## ロン&バーブ・サイニー (WFC 元館長 2009 年-2011 年)

### 平和

ワールドフレンドシップセンターは、平和のための活動を続けています。戦争で最も悲惨な被害を受けた人々が、復興を経て、その後更に歩みを進めて、他の人々が惨禍を受けないよう行動を続けています。WFC は平和研修と活動を通して、強い意志を持って、個人の中から生まれ出る平和とは何かを明確に示します。一人一人のゲストや生徒やボランティアが、一つ一つの行事や活動を一緒に行いながら、まるで憎しみとは逆の、生命や愛情が織り込まれた一枚の織物を織り続けています。



WFC での私達の任期はほんの短期間だけでしたが、WFC は私たちの人生に今も影響を与え続けています。ワールドフレンドシップセンターが 50 年間活動を続け、今なお継続していることに感謝します。温かく迎え入れる WFC の扉から、傷つけ合う世界にどれほど多くの暖かい気持ちが伝えられたか分かりません。平和に向けた WFC の活動の一翼を私たちが担えたことを光栄に思います。皆様に神の恩寵と平穏がありますように。



(ロン&バーブ、人形劇)



(広島留学生会館での WFC45 周年記念行事)

## ジョアン&ラリー・シムズ（元館長 2011 年－2013 年）

### WFC の皆さんと過ごした時間を振り返って

私達は 2006 年と 2009 年にアメリカ PAX のメンバーとして WFC から派遣された多くの素晴らしい人々と出会いました。そして WFC に 2010 年に平和大使としてやってまいりました。私達の任期は 2 年と少しだとわかっていました。そして任務は、ベッドメイキング、朝食の準備、英会話クラス、日曜学校、様々な平和活動に力を注ぐことでした。WFC での時間はとても忙しく、めまぐるしく、人生を変えるほどのものだとは思っていませんでした。



公の場での初仕事は、2011 年 6 月に平和記念公園で行われたバーバラ・レイノルズの記念碑の除幕式の代表を務めることでした。バーバラの娘のジェシカに家族と共に参列してもらえたのは大きな喜びでした。私達が来日する 6 週間前の 2011 年 3 月に発生した大震災と津波のために、日本全土が衝撃を受け深い悲しみに包まれていました。日本への旅行者もめっきり少なくなりました。ゲストもほとんど訪れなくなり WFC の平和活動の資金も減ってきました。そういう時だったからこそ私達は、マイクと広島で共に歌おうと、2009 年に渡辺朝香さんが語った夢に答えて、マイク・スターンとのジョイントピースコンサートを提案したのです。多くの方々の協力で“one world peace concert”は素晴らしい成功を収め、立見席が出るほどの満員の聴衆で世界平和記念大聖堂を埋め尽くしたのはつい最近の 2012 年の春でした。

中国人、韓国人、日本人が参加したピースキャンプを主催する計画には何か月も要しました。2012 年の夏の一週間、孫のネイサンを含めておよそ 50 人のキャンプ参加者のために、ジョアンは薪でお湯を沸かしたりご飯を炊く“おばあちゃん”として働きました。第二次大戦後、広島に建設された家についての何気ない疑問が、今田洋子さんとの心温まる友情に発展しました。今田洋子さん、私達の通訳兼日本語の先生の車地かほりさん、それに WFC のメンバーたちと協力して、2012 年 11 月に開催されたシュモアハウス開館記念式のお手伝いをしました。フロイド・シュモア氏のご子息達やエミリー・アンドリュースと共に式典に参加しました。米国から 17 名が開館式とシュモアハウスを記念して行われたシンポジウムに出席しました。

開館記念期間中に行われた日系アメリカ人の体験についてのシンポジウムが “沈黙を破って～Breaking the Silence” というドラマを WFC に招聘するきっかけになりました。それはちょうど NHK 後援による広島県立美術館で開かれた “尊厳の芸術展～The Art of Gaman” の展示と時を同じくするものでした。理事と力を合わせ、複数の会場を確保し、BTS のドラマの宣伝をし、第二回 “one world peace concert” を 2013 年 8 月に開催する準備のために懸命に働きました。

50 周年記念の後も WFC の平和活動は継続すべきということで全員一致の同意がえられました。その時、WFC の新しい家を探すということが決まりました。2013 年秋のアメリカ PAX 派遣の計画も始まりました。WFC での日々は忘れがたい思い出です。世界中からたくさんのゲストをもてなしました！ラリーの専門分野である原子炉の安全性について話をしました。私達は、共に力を合わせ世界の平和と核兵器のない世界のために生涯協力する WFC の友人を得ました。希望を持ち続けましょう！



(ワンワールドピースコンサート)

### リチャード&シーニア・トバイアス (2013 年-2015 年)

平和のメッセージとバーバラの遺志がワールドフレンドシップセンターで引き継がれていきますように！

2013 年から 2015 年にかけて、ワールドフレンドシップセンターのボランティア館長を務めていることを名誉に思います。この間は私達の 32 年間の結婚生活の中で、一番とは言わないまでも、確実に輝かしい日々です。私達の本当の気持は言葉では言い尽くせません。



広島で知り合った日本人、アメリカ人、イギリス人の仲間達との素晴らしい友情をいつまでも大切にするつもりです。センターにいて、35 カ国以上から来たたくさんのゲストに会う機会に恵まれ感謝しています。広島原爆養護ホーム舟入むつみ園を毎月訪れ誕生会をしたり、被爆者と一緒に歌ったりしています。1945 年 8 月 6 日のあの恐ろしい朝を経験した方達から聞いた体験談は決して忘れません。

2013 年の 8 月ブレイキング・ザ・サイレンス (沈黙を破って) という朗読劇のグルー

プの人達 10 人がセンターに滞在し、私達はそのお世話をしました。そして、彼らと一緒にマイク・スターンと夫人のキャロルが 2 回目の one world peace concert のために来広しセンターに滞在しました。それは WFC で一番多忙な時でした。

私達は、また平和市長会議の 2020 ヴィジョン・キャンペーンの一環である「私は（被爆時）彼らと同じ年齢だった」という世界的規模のプロジェクトのために来広したアロン・トビッシュ氏を迎え WFC は彼の仕事に協力しました。2013 年の 9 月末には、光栄にもオットー・ハーンの孫息子のディトリッヒ・ハーンにお会いし彼の祖父のことや祖父が自分の発見が原爆製造に使われたことを知って苦悩した話を聞きました。

この数カ月、私達は英語やスペイン語の会話クラスの人達や WFC の友達と旅行を楽しみました。また、色々なイベントに参加して、音楽を愛する日本の友人達と一緒に歌いました。リチャードは他のいつくかの修理をするかたわら、堀江壮さんの助けをかりて、非常梯子を作りました。この修繕により、安心してゲストを迎えることができるようになりました。定款の一部変更により、ワールドフレンドシップセンターは平和学習のための研修施設になりました。我々は今ワールドフレンドシップセンターの 50 周年を祝う準備をすすめています、間もなく大々的な募金活動を開始します。

50 周年を迎えようとしている今、バーバラ・レイノルズの遺志は引き継がれてゆきます。バーバラの望みは、核兵器廃絶と人類が旧約聖書のイザヤ書第 2 章 4 節に「そして彼らはその剣を打ちかえて鋤とし、その楯を打ちかえて鎌とし」と記されているような平和を実現する事でした。ワールドフレンドシップセンターを訪れる人は皆人類が二度と戦争を引き起こさないように願っています。

私達の任期は終わりに近づいていますが、バーバラの遺志がワールドフレンドシップセンターで引き継がれることを心から願っています。センターの素晴らしいプログラムを継承し、その実行にあたられる方々のために心からお祈りいたします。

## ジェシカ・レンショー

### WFC 50周年記念行事に寄せて



バーバラ・レイノルズは生きていれば今年 100 才になります。娘の私は 70 才です。被爆者はみんな高齢化し、亡くなった方もたくさんいます。私たちくらいの年配の人は、「ノーモア核の被害、平和の構築」という、ヒロシマ・ナガサキ・フクシマのメッセージを、次世代に伝えなければならないと強く思っています。

2011 年に、バーバラの孫で甥のトニー・レイノルズと夫のジェリーと共に、バーバラ・レイノルズ記念碑の除幕式に参列できてうれしく思いました。トニーはおおらかで親しみやすく、日本のあらゆる物に興味を示していたので、皆さんは好感を持たれたと思います。

今年は、私の喜びは 7 倍です。WFC の 50 周年記念行事に、2 人の孫と 5 人のひ孫が参加する予定だからです。

リサ・レイノルズ・ウォーカーは、バーバラの息子テッドと東京出身の最初の妻、河村湊の間に生まれた次女です。リサはハーフで以前 2 回、計 2 ヶ月ほど日本に滞在して、母親の親戚を訪ねています。日本語が少し話せます。

2005 年にケイリーとキンザという日本人の血を引く 2 人の娘を連れてリサがスコット・ウォーカーと結婚しました。スコットは意志が強く正義感と思いやりにあふれる人で、自分の娘アマンダを連れて結婚しました。リサとスコットの間には 4 人目の娘、アシュリーができました。彼らはミシガン州ウィリアムストーンにある牧場に住んでいて、山羊、鶏、豚、アルパカ、猫やアギンコートという名前の馬を飼っています。

リサとスコットは、世界中の戦争と貧困に苦しむ人々や動物さえも守ろうとする広い心を持っています。リサは獣医で、アフガニスタンに行って農業や家畜の専門知識を生かして支援活動をしたことがあります。今年の後半にはアフリカに行き、人畜共通感染症や節足動物媒介性のエボラ熱のような感染症に関わる支援活動を、いくつかの国で行う予定です。

リサとその娘たちは、日本人の礼儀正しさともてなしの心を持ちつつ、アメリカ人の寛大さと家族の枠を超えて他人のために力を尽くすという素晴らしい性格を併せ持っています。

ケイリーは 18 才で、高校 3 年生です。Math and Science Academy のメンバーで、趣味でロボットを作っています。将来は天体物理学者を志望しています。祖父テッドは、彼女を「真っ正直で聡明な子」と言っています。

キンザは 16 才で、同じく **Math and Science Academy** のメンバーです。彼女の母親は、「本の虫」と呼んでいます。フルートが吹けて、美術が大好きです。夢は画家になることです。祖父は、「観察力があり、社交的」と言います。

アマンダは 4 月 18 日に 15 才になります。ダンスが好きで上手です。障害児教育専門の教師になりたいと思っています。養祖父テッドは、「もの静かで内向的」と言っています。

アシュリーは、9 才で小学校 3 年生です。サッカーの奨学金をもらってオックスフォード大学に留学し、ゆくゆくはプロのサッカー選手になりたいと思っています。祖父は「活発で元気」と言っています。

マーゴット・ゲイル・バッカスはバーバラの息子ティムの一人娘で博士号を取得しています。夫のスティーブ・テニソンと娘のジェリリンと共にテキサス州ヒューストンに住んでいます。

マーゴットは、ヒューストン大学の英語の教授で学部生や院生を指導しています。アイルランドの文学と文化に関する 2 冊のノンフィクションを執筆しました。2 冊目の「ジェイムズ・ジョイス研究」の下調べで、ゴールウェイに 1 年間滞在しました。現在はフルブライトでベルファストのクイーンズ大学で研究しているので、マーゴットとジェリリンは北アイルランドから直接日本に来ます。マーゴットは、「軍隊と構造的暴力の起源と影響」に関心を持ち続けていますが、それは米国での 80 年代の反戦・反核運動に関わった経験にまでさかのぼります。言葉やイメージがどのように危害を加え、また癒しになるかという問題に専門的に取り組むと共に、平和と正義のために発言し行動し続けています。

ジェリリンは 13 才で、人間や動物をはじめとして全ての物に興味があります。世界中の若者と同様、日本のアニメや漫画が大好きです。それが高じて自分でも漫画を描いています。日本文化が大好きで、日本語も学びたいと思っています。



(マーゴット家族)



(リサ家族)

スティーブは、テキサス大学で電気・コンピュータ工学の理学士号を取得しました。20年近くエンジニアとして働きましたが、システム全体の機能に関心が強まり、一念発起して不動産投資の勉強をしました。そして共同出資者と共に、ヒューストン地域のマンションを購入し、改修して、安全で環境に優しく、子供や家族が住みやすい場所に変えるという仕事をしています。住居者のために集合住宅の不備を改善して居住環境を向上させるという信念を持って働いています。

## 高原 弘子 (第2回世界平和巡礼団員)

### ワールドフレンドシップセンター創立 50周年を祝って

ワールドフレンドシップセンター創立 50周年を迎えられおめでとうございます。バーバラ女史の遺志を継承され、半世紀に及ぶ今日まで献身的な活動を続けられた、歴代理事長、館長、関係者の皆様へ心よりお祝いと敬意を表します。



1964年第2回世界平和巡礼(広島・長崎世界平和研究使節)に参加して早くも50年の歳月が過ぎ、時の流れを感じています。長崎の団員6名のうち生存していますのは岩谷久仁子さん(旧姓小佐々)と私の二人になりました。巡礼当時のことが懐かしく思い出されます。帰国した折に、「各地で灯した平和のあかりを決して絶やす事無く、これからも守り続けましょう！」とおっしゃったバーバラさんのお言葉を忘れる事は出来ません。その言葉は私の心の中に深く刻まれています。平和巡礼が縁で熱心な平和活動家の方や平和を愛する多くの人達に出会った事は私の人生に掛け替えのない大切なものを与えてくれました。これもひとえにバーバラさんのお蔭と深く感謝しています。かつて、ささやかながら長崎にいてセンターのお手伝いをさせて頂いた事は喜びでした。有難うございました。

依然として世界には紛争が絶えず、核の拡散が危惧されます。核兵器の無い平和な世界と人々の幸せを願い、ワールドフレンドシップセンターの更なる発展とご活躍を祈念いたします。

## デイビッド&エビー・バーチェ（元館長 2001年- 2003年、アメリカ委員長）

### ワールドフレンドシップセンターの館長として過ごした日々の思い出

私達が WFC でボランティア館長として勤めた 2 年間は、「人生で最高の経験であった」と何度も言っています。アメリカの中西部の農場で育って、いつの日か美しい日本に行き、私達を歓迎し友情を注いでくださる人々に囲まれて暮らすことができるなんて想像もしていませんでした。広島に住むことになり、50 年にわたり平和活動をしてきた WFC の人々と共に働ける機会を与えられて光栄でした。新しい任務を知り、その仕事にかかわるようになりやる気がわいてきました。英会話クラス、平和公園ガイド、ピース・クワイア、被爆証言、むつみ園訪問などの活動はわくわくするプログラムでした。さらに、日本の文化を学び、コンサートや音楽プログラムを楽しみ、教会や美術館にも行きました。平和記念資料館や平和公園に行き、8 月 6 日の平和記念式典に出席し、「ノーモア ヒロシマ」の信念をより強く感じました。任期中 42 カ国から広島を訪れた 2000 人以上の外国からのゲストをもてなしバーバラ・レイノルズについての話しをしました。居間でお茶を飲みながら、または朝食のときに世界情勢や平和の重要性について話し合いました。交流をはかることでバーバラの精神がはっきりとわかってきました。WFC は近年日本、韓国、中国の成人や若者の交流とピースキャンプに取り組み始めました。このような平和を促進するプロジェクトについての話し合いに関わったことを嬉しく思っています。



(山下美枝子さん、山根美智子さん、  
しんちゃんとむつみ園訪問)



(ゲストとともに)

## アリス&ロバート・ラムザイヤー (元理事)

このたびは、広島をはじめとし、世界各国の人々に貢献してきたワールドフレンドシップセンターが創立 50 周年を迎えたことを、心からお祝い申し上げます。ワールドフレンドシップセンターは広島の人々と世界各国からの旅行者が平和の必要性について話し合う場を提供してきました。創立者のバーバラ・レイノルズが、もしも今日のワールドフレンドシップセンターを見たらどんなに誇らしく思うことでしょう。



友愛 WFC15 周年記念誌のコピーが私たちの家にあります。創立 15 年時には、WFC は活発に活動していたようですが、今や、創立 50 周年を迎えようとしています。50 年を経てもなお、WFC はしっかりと活動を続けているのです。実際のところ、50 年経った今のほうが、当時よりもセンターは精力的に活動を行っています。多くの方々の長年にわたる貢献に支えられ現在に至っているのです。今まで貢献してこられた方々に感謝し、誇らしく思います。けれど、「感謝申し上げます」の言葉だけでは、これまでの皆様方の貢献に対して十分表現できません。

私達と WFC の繋がりは 1978 年の秋にさかのぼります。その当時、WFC に寝泊まりしながらアパートを探していました。アパートが見つかり、1979 年 1 月初旬に引越しをしました。WFC は私達にとって、第二の家ともいえる場所となりました。私達の任務は、広島にメソナイト教会を新たに興す支援をすることでした。アメリカの WFC は、クエーカー教会、ブレザレン教会、メソナイト教会によって支援されています。この三教会は、平和主義、非暴力こそが信者が進むべき道であるとイエスが説いたと強く信じています。従って、私達と WFC が深い繋がりを持つことになったのは、戦争ではなく平和が神の意志であるという信念から、当然の流れだったと言えます。

WFC では多くの活動に参加しました。理事会にも加わり、この経験から多くの事を学びました。もっとも素晴らしかったのは、多くの人々と知り合い、今なお大切に思う、多くの良き友人を得たことです。私たちは任期を終え、アメリカに帰国し、アメリカ委員会に入りました。そのおかげで、大切な友人達との繋がりを持ち続けることが出来ました。私達の住居はアメリカ委員会がある場所から遠く離れていて、だんだん年老いてきたので、ここ数年は活動に積極的に参加していませんでした。今でも、WFC の人達を心から大切に思っています。

ワールドフレンドシップセンターの 50 年の更なる繁栄をお祈りいたします！

## スティーブ・リーパー (理事 1987年～)

### 感動的な50周年おめでとうございます

私はセンターの50年の歴史の中で30年近く、わずかながら関わってきました。1986年か1987年に Lonnie Wiig に頼まれて初めて理事会に参加しました。1990年代のある一時期、2～3ヶ月センターに住んだこともあります。数回の移転、特別プロジェクトや行事、盛大なクリスマスパーティー、英語クラス、館長たちの交代、理事の病気や死去、幾度かの存亡の危機など、センターにかかわるいろいろなことを目にしてきました。理事会の時間を延長して、危機に対処するために4時間も話し合いました。内部で対立することもありました。しかし、それも終わってみれば、理事たちの誰でも全て受け入れて合意に導こうとする努力に、私は教えられ刺激を受けました。



話し合いで意見が10対1に割れた時でも、決して多数決で決めないで、一人の頑固な理事が同意するまで何時間もかけて説得する光景を見ました。最後にその理事が同意したのは、無理やりそうさせられたのではなく、皆が、自分を除け者にしないで、結論に納得できるよう一生懸命努力してくれたと感じたからなのです。理事だけでなく、学生やゲストまでも一人一人を大切にするという精神こそが、この組織力も資金力も乏しいセンターの平和活動を、50年間も奇跡的に継続させてきたのだと強く信じています。その根底には、創設時の会員たちのバーバラ・レイノルズへの愛があります。私は彼女に会ったことはありませんが、まぎれもなく彼女への崇拜・敬愛が常に感じられます。彼女はいつも原点にいて、理事会では彼女の名をよく耳にします。そのように長期にわたって強く慕われているバーバラは、とてつもなく温かく愛情深い人か、少なくともカリスマ的な人に違いないでしょう。

その信念は間違っていないのです。被爆者に会いヒロシマのことを学ぶ機会を海外からのゲストに提供することは良いことです。しかし、立派な考えというものは、通常実を結びません。ましてや、50年間も継続することはありません。平和のメッセージを伝えるために、バーバラの熱意が、被爆者と広島市民の熱意と合わさって、センターを一年一年前進させて来たのです。そしてその結果、何千人もの外国人と日本人が、広島で期待以上の経験をすることができたのです。

私は何十人ものゲストをセンターに紹介しました。時々感じられる不便さや、プライバシーの欠如はあるにせよ、センターは心温かく、面倒見が良く、寛大で楽しい所なので

ゲスト達はきっと歓待されるという確信があったからです。センターに滞在して不満をもった人もいたとは思いますが、私はこれまで聞いたことがありません。聞くのは賞賛の言葉ばかりで、最近では、この11月に義理の弟から聞きました。

私は理事の中で最悪の理事でした。何ヶ月も、時には何年もいなくなりました。前もって丁寧に送られてきた資料を、持参することもなく、進行中の事情が何もわかっていませんでした。それでも、行けば「放蕩息子」が現れたように歓迎されました。できることだけしか役に立てませんが、許されないほど大目に見てもらっています。センターから平和について多くを学びましたが、センターは単なる平和教育や平和活動を行なう場所ではありません。センターは平和そのもので、もし、私達が次の世紀まで生き延びようと思うなら、人間同士がどのように関わり合わなければならないかを示す良い手本なのです。

今日、センターは50年間で最も深刻な危機に直面しています。当然ながら、被爆者との出会いを提供するために設立された組織は、被爆者がいなくなると、存続の危機にさらされます。2015年は、私もセンターにもっと熱心に関わるつもりです。そして、このすばらしい団体の会員全員が知恵を絞って、センターの今後50年間のあり方を考えて欲しいと思います。

## NPO ワールドフレンドシップセンターの歴史

ドン&ポーリーン・ヘス (2005年-2007年)

### ワールドフレンドシップセンター創立 40 周年記念

WFC の 40 周年創立記念式典に、ブレザレンボランティアサービス (BVS) 常任理事会の代表者、WFC アメリカ委員会、ウィルミントン大学、クウェーカー代表団及び WFC 前館長ら来られました。BVS 常任理事会代表者のダン・マクファーデン氏は、WFC の働きをブレザレン教会が承認した次のような決議案を紹介しました。

「WFC が広島に創立されて 40 周年を迎え、ブレザレン教会常任理事会は、WFC が平和活動の一環として原爆被爆者の体験を伝え、世界の人々との友情をはぐくむためのたゆまぬ努力をしておられることを讃えるものである。ブレザレン教会は、長い間、BVS を通して WFC と協力し合ってきた。我々ブレザレン教会は、原爆によって壊滅した広島焼け跡の中から誕生した WFC の、あらゆる宗教、信条を超えた貴重なあゆみは慶賀にたえない。今日に至るまでの WFC の働きに敬意を表すると共に、今後も、核兵器のない、戦争のない世界の創造を目指して、共に力を尽したいと願うものである。」 (ドン・ヘス)

(写真右、マリアン・アルバートがブレザレン教会から贈られた世界地図をプレゼント。地図を持っているのはマクファーデンさんの子どもたち)



(写真左、オハイオ州ウィルミントン大学の元宗教学、哲学の教授であるキャンビー・ジョーンズ氏は、8月7日の式典のキーパーソンでした)



(現館長・元館長が思い出を語り合う)

## ケント&サラ・スウィツアー（2007年－2009年）

### 第1回インターンシップ

ジム・ロナルド氏と私は、WFC と修道大学とのインターンシップの可能性について話し始めました。そうした話し合いから約80時間の初のインターンシップが田丸和枝さん、島村康代さんを受け入れることで実現した。このインターンシップ以前はお互い知り合いでもなかった二人ですが、興味を共有しWFCでその歴史、伝統そして現在の課題を多くの人から学びました。  
(ケント・スウィツアー)



(田丸和江さん、島村康代さんと一緒に)

### 韓国 PAX2008

韓国 PAX2008 に参加した修道大学学生、李順姫さんは次のように記しています。彼女は修道大学で英語を専攻している在日韓国人学生です。  
PAX programによって、日韓の歴史を再度学びたく、もっと知ることができると思っています。また、韓国で歴史を学ぶことで、今までとは違った視点から、歴史、平和について考えることができると思いました。



(写真上：1列目左から：田口千鶴子さん、関口先生、李順姫さん、田丸和枝さん  
2列目左から：植村祥さん、河野寿子さん、小野亜耶さん、ジム・ロナルド)

また、長崎の高校生、小野亜耶さんの参加で、今回の韓国 PAX チームがさまざまな世代から成るバランスのとれたチームとなりました。



[写真：田口知鶴子、小野亜耶、Keisen(ホストマザーの義母)]

## ピースキャンプ



(ジム・ロナルド、クリシュナ・ソマナ、田丸和枝、懸川萌、坂田悠綺、森嶋かりん、懸川明貢)

2009年7月25日(日)ピースキャンプのための長い準備は終わり、ついに四川省成都でのキャンプが開始した。広島から7人(中学生2名、高校生2名、カウンセラー2名、コーディネーター1名)はキャンプに旅立った。キャンプ地に向かうバスの中で、中国人高校生が「戦前、戦時中に日本人が中国人に対して何を行ったか知っている。適切な謝罪はないし、日本史の教科書は真実を伝えていない。」と言っていた。中国の学校では日本とドイツの戦後処理の比較学習をしていて、どういう状況だったのか学んでいた。我々に言えることは多くはなかったが、そのことはこのピースキャンプが行われる必要性を確信させるものだった。キャンプが終わる前、同じ生徒が涙を流しながら、「今はもう日本人が嫌いではない。日本人の友達が出来たから。家に帰ったら、家族や友人に話をする。」と言った。そして、その子はそうした。翌年、彼女の弟がピースキャンプに参加したのだ。(ジム・ロナルド)



## ロン&バーブ・サイニー (2009年-2011年)

### 被爆者 UCM へ招聘

2010年9月23日から10月5日まで2週間にわたる今回の被爆者らとのプロジェクトほど学生や大学全体の耳目を集め、彼らに強いインパクトを与えたプロジェクトはかつて無かった。



(UCMにて折り鶴を折る)

プロジェクトタイトルは「ノーモアヒロシマ：戦争体験と平和」。ミズリーでの滞在期間中全33回、1,600人以上の人達への被爆証言を行った。「ノーモアヒロシマ：戦争の映像、平和の訴えの美術展」を見に約1500人が訪れた。大学のプログラムとして、この出席者数の多さはただただ驚くばかりだ。

プロジェクトへの驚異的な好反応。彼女らの滞在期間だけでなく、日本に戻ってからもその反響が続いている。私は、幾度となくこのプロジェクトがとても有意義だったとの感想を耳にした。生徒達は何度も感動のあまり涙を流し、クラスが終了しても自らの体験を語ってくれた被爆者に感謝の気持ちを表わしたくて並んで待っていた。

被爆者の活動から学んだ事は、報復と怒りは心を閉ざし、許しは心を開くという事だ。 (ウエンディー・ガイガー)



(トルーマンライブラリーにて)

### ジョアン&ラリー・シムズ (2011-2013年)

#### バーバラの碑除幕式

“私もまた被爆者です”

そのうち被爆者は一人もいなくなるかも知れないと、もどかしがりながら、長年の念願であった記念碑。4月、市の許可がようやく下りてから約1か月半というもの、実にあわただしく、募金、準備、その間に震災、原発事故。

6月12日、やっと除幕式にこぎつけた。当日は前後にもない激しい雨。(座席の後ろを激流が流れていた。) 今思うに、衝撃的な式典であった。 (森下弘)



(松原美代子、WFC館長ラリー&ジョアン・シムズ、阿部静子、森下弘、トニー・レイノルズ、ジェリー・レンショウ、ジェシカ・レンショウ)

バーバラとともに平和巡礼に参加した被爆者をはじめとして、バーバラレイノルズの娘ジェシカ、ジェシカの夫ジェリー、バーバラ・レイノルズの孫トニー・レイノルズ、ワールドフレンドシップセンター館長のジョアン&ラリー・シムズは、2011年6月12日、紅白の紐を引き、平和公園に新たに建立された記念碑の除幕式を執り行いました。

(ジョアン&ラリー・シムズ)



(森下弘、ジェシカ・レイノルズ・レンショウ、ジェリー・レンショウ)

### ワールドフレンドシップセンター 2011年度「奉仕仲間賞」を受賞



(左から右：前列：ダン・マクファーデン、木戸マサコ、後列：リン・ルウェリン、WFC前館長達)

毎年ブレザレン・ボランティア・サービス (BVS) は奉仕行為を通して神の愛を BVS と分かち合うひととき優れた係わり合いを立証した個人、事業又は組織を表彰しています。BVS スタッフはこの榮譽に対して、全会一致でワールドフレンドシップセンターを選びました。

榮譽賞は2011年7月4日、ミシガン州グランド・ラピッド市でのブレザレン年次総会で贈呈されました。ワールドフレンドシップセンターの理事の一人である木戸マサコさんは夫リン・ルウェリンさんと共に米国を訪問中で、WFCを代表してその賞を喜んで受け取りました。

(ジョアン&ラリー・シムズ)

## 「NARPI 平和研修会に参加して」



(2011 年 NARPI 平和構築サマートレーニング参加者)

NARPI(北東アジア地域平和構築研究所 本部 韓国ソウル市)が、日本を含む東北アジア地域において、草の根レベルで平和づくりに取り組む人材を育成するために、「紛争転換・修復的正義・トラウマ対処」等の技術を修得するために企画された平和教育プログラムです。

研修会内容は 2 週間で 6 講座が 5 日間単位で開催される。受講者は選択して履修できます。第 1 週(16 日―20 日)は「紛争と平和」、「平和教育」、「修復的正義」の 3 講座が、第 2 週(24 日―28 日)は「平和についての歴史的文化的話」、「トラウマへの対処」、「紛争調停」の 3 講座が開かれました。(藤井正一)

## ワンワールドピースコンサート

WFC ピースクワイアの指導者、渡辺朝香さんが 2009 年の秋アメリカのオレゴンを訪れた時に持った夢が 2012 年 4 月 13 日に素晴らしい形で実現しました。ワシントン州シアトルから来日したミュージシャンでかつシンガーソングライターでもある、マイク・スターンは彼のオリジナルソング



「ワンワールド」をひっさげて広島で多くのミュージシャン、ダンサー、歌手と共に素敵なコンサートを開きました。コンサートは世界平和記念聖堂(幟町カトリック教会)でありました。聖堂の収容能力は 400 人ですが、コンサートの聴衆は 400 人以上で満員でした。(ジョアン・シムズ)

## 広島平和記念資料館シュモーターハウス

「1945年8月、原爆投下の罪を償おうと全米から4000ドルを携え、まだ焼跡の残る広島を4人が訪れる。東京や広島のボランティアと一緒に1053年までに住宅と集会所21軒を建て、市と民間に寄贈した。」ことがわかりました。その集会所が広島平和記念資料館の分館として南東に40mばかり移転し、シュモーターハウスとして11月1日開館しました。10月31日開館式が行われました。63年前のシュモーターさんの再来かと思うほどよく似ておられる御子息のシュモーターさん、アンドリュースさん達が高齢にもかかわらず来広して下さいました。エピソードをまじえヒロシマの家の建設当時の事、平和主義の生き方を話して下さいました。



(シュモーターハウス)



(ウィルフレッド・シュモーターさん達と松井市長表敬訪問)

2012年11月1日に松井市長は1949年から1953年に広島に家を建設するプロジェクトのもたらした功献と平和の心に対して感謝の気持ちを表しました。 (今田洋子)

## リチャード&シーニア・トバイアス (2013年—2015年)

### Breaking the Silence (BTS)



(流れ川教会にて One World Peace Concert)



(8月3日 Breaking the silence 上演)

“Breaking the Silence” 上演のためキャストや団員としてアメリカから訪れた私たちを、皆様はとても温かく優しく迎えてくださり感激でした。とても感謝しています。

(ハーブ・ツチャ)

## WFC 平和使節団(PAX)

旅行期間：2013年9月14日(土)～10月5日(土)

訪問団人数：16名(女性12名、男性4名)

阿波明子, 石井晶子, 今田洋子, 尾崎美栄子, 車地かほり, 小泉直子, 片岡喜美子, 河野きよみ, 小島悦子, 田中健三, 西田美知子, 浜井道子, 堀江壮, 藤井正一, 森河伸子, Ron Klein 団長: 藤井正一

副団長: 車地かほり 会計: 石井晶子



(シアトル、ピース・パークのサダコ像を前にして)

ハンフォード(長崎に落とされた原爆を製造した原子炉跡)、ミニドカ日系米人収容所跡、ベインブリッジ島(日系人227人が強制退去された島)、サンタフェで日系アメリカ人(男性だけ4555人)の収容所記念碑、ロスアラモスにある広島に落とされた原爆を製造した場所と実験場を訪問した研修旅行は大きな収穫でした。(藤井正一)

発行者 特定非営利活動法人ワールドフレンドシップセンター

発行所 〒733-0032

広島市西区東観音町8-10

(C)NPO World Friendship Center 2015

無断転載、複製を禁ず